

研究機関：広島大学

研究課題名	未破裂大型近位部内頸動脈瘤の治療法に関する全国実態調査
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科脳神経外科学 教授 栗栖薫
研究期間	2017年12月7日(倫理委員会承認後)～2018年9月
対象者	2012年1月から2016年12月の間に、本院脳神経外科を受診し初回治療として治療を行った未破裂大型近位部内頸動脈瘤の患者さんで、動脈瘤の大きさと部位が、最大径10mm以上の海綿静脈洞部または傍床状突起部の内頸動脈瘤(内頸動脈の錐体部から上下垂体部における最大瘤径が10mm以上の動脈瘤)の患者さん
意義・目的	<p>後交通動脈分岐部より近位の未破裂大型内頸動脈瘤に対して、外科治療では頭蓋底外科技術や血行再建術など、血管内治療ではバルーンアシストやステントなどが発展してきているものの、治療に難渋することや合併症が生じることはいまだ稀ではありません。近年になり、血流の整流化により動脈瘤を閉塞させるフローダイバーターが新しい治療法として認可されました。これにより従来治療の難しかった脳動脈瘤も安全に根治できる可能性が高まってきました。しかしながら、この最新治療を含めた、この部位の大型動脈瘤の治療適応ならびに治療成績を含む全体像については明らかではないのが現状です。</p> <p>そこで、本研究では、全国の脳神経外科主要施設に対してアンケート調査をし、現在の同動脈瘤の治療実態を明らかにし、今後の治療指針に資するデータを提供することを目的としています。</p>
方法	<p>本研究では、診療録を利用し、最大径10mm以上の海綿静脈洞部または傍床状突起部(内頸動脈の錐体部から上下垂体部)の未破裂内頸動脈瘤患者さんにおける患者背景、臨床症状、放射線学的所見、治療法、合併症や転帰等を調査します。この上で、治療法の選択、動脈瘤の閉塞状態(破裂および再発)、神経学的転帰、周術期合併症および再治療の有無を主に検討します。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	山梨大学ほか全国約180施設 各施設で匿名化した情報を山梨大学に集め山梨大学(研究責任者 木内博之)が解析します。
試料・情報の管理責任者	山梨大学医学部脳神経外科講座 教授 木内博之
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。ただし、モニタリングのためプライバシーが保護されることを条件に、研究者から業務委託された者が、あなた個人を特定できる形で診療情報を閲覧することがあります。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5226 広島大学病院脳神経外科 准教授 井川房夫